●毎月第一週は、 松浦武四郎の人となりに ついてご紹介します

まんざら眉唾でもないような気 るので、この一日八十キロも この連載の二号の記述にもある とすると一日、八十キロです。 ……ちょっと盛り過ぎ? という気もしますが……でも、 を会得していた可能性もあ 武四郎さんは〈神足歩行

なことが書いてあります。 行術〉の秘伝書によると、こん 一号の図版にもある〈神足歩

· 松浦武四郎記念館 りないわけですから当然のこと センチくらいだったんですね)。 四郎さん、足の大きさは二十 なのですが、武四郎さん自身は 日二十里歩いたと自慢して 今と違って移動手段は歩くよ 里が今の約四キロ……

ځ も同様で小腰小刻みに歩くこ や左右を見るのは禁物、平地 先三尺を見詰めて歩く。 体中の凝が解けて足が軽くな と歩み、気が丹田に落付き ってから速歩に移る 【歩き方】初の|里はゆるゆる 【山地と平地】山登りの時は足 遠く

ショ、登り道の時はマダマダ マダマダ、之れ以外の掛声は 【掛声】サササザザザ、オイト 切相成らず。(原文ママ)

りご来迎を拝んで、またまた ます。それも一日で山頂まで啓 た記念に富士登山も決行してい 秘境といわれる大台ヶ原を三回 ても衰えず、六十八歳の時から の使い方が違っていたようです。 あるのですが、肝心な部分は 日で下山するという健脚ぶりで も踏破していますし、七十になっ ません。どうも昔の日本人は体 〈口伝〉となっていてよくわかり 武四郎さんの健脚ぶりは老い ……このように細かく説明が

2019年(平成31年)1月2日(水) 発行・松阪市

歩いたといいます(ちなみに武 の草鞋にまかせ」とにかくよく

松浦武四郎という人は、「七寸

八丁脚八丁〉と評した人もいま とを〈手八丁口八丁〉ならぬ うです。また、武四郎さんのこ 四郎さんの矍鑠ぶりは、 生五十年、七十は文字通り古来 す。今でこそ七十といっても若々 脚を持つ男〉と呼ばれていたそ 錬ができていたからでしょう。 若い時から歩き続けて足腰の鍛 稀なりといわれていた中で、 しい人が多いですが、当時は人 武四郎さんは当時から、〈鉄の やはり

す。なかなか言い得て妙ですね。

松浦武四郎 (1818 ~ 1888)

三重県松阪市出身。幕末から明治にかけ ての探検家、著述家、蒐集家。 蝦夷地(今 の北海道)を6度にわたり探査し、 イヌの人々と交流を深め、蝦夷地の詳細 な記録や地図を作成した。維新後、蝦夷 地に代わる新たな名称として〈北海道〉 のもととなる〈北加伊道〉を含む6案 を政府に提案したことから〈北海道の名 付け親〉と称される。



